

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-305576

(43)Date of publication of application : 28.11.1997

(51)Int.Cl.

G06F 17/21  
B41J 29/40  
G06F 3/12

(21)Application number : 08-115005

(71)Applicant : CASIO COMPUT CO LTD

(22)Date of filing : 09.05.1996

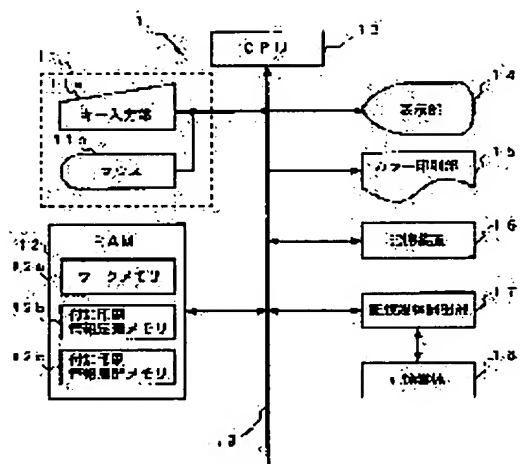
(72)Inventor : INOUE MASAHIRO  
HARUNA YUTAKA

## (54) PRINTING METHOD

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To improve work efficiency by printing designated additional print information at the prescribed position of a printed matter when printing print designated data as this printed matter.

**SOLUTION:** When the print data are discriminated as data for a leading page, next, a CPU 13 discriminates whether the item of degree of emergency is set to 'present' in print designating processing or not. When it is discriminated that the item of degree of emergency is set to 'present', the image data of additional print information stored in an additional print information extension memory 12c of a RAM 12 are read out and these image data of additional print information are synthesized with the print data for the leading page inside a work memory 12a. Then, the CPU 13 outputs the print data for one page from the work memory 12a to a color printing part 15 and at the color printing part 15, the data are printed out onto paper based on the print data for one page transferred from the work memory 12a by the CPU 13.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 01.10.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than abandonment  
the examiner's decision of rejection or  
application converted registration]

[Date of final disposal for application] 01.11.2004

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision  
of rejection]



[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-305576

(43)公開日 平成9年(1997)11月28日

(51)Int.Cl. <sup>4</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 17/21			G 0 6 F 15/20	5 6 6 P
B 4 1 J 29/40			B 4 1 J 29/40	Z
G 0 6 F 3/12			G 0 6 F 3/12	B
				L

審査請求 未請求 請求項の数9 OL (全 12 頁)

(21)出願番号	特願平8-115005	(71)出願人	000001443 カシオ計算機株式会社 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
(22)出願日	平成8年(1996)5月9日	(72)発明者	井上 正広 東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ 計算機株式会社羽村技術センター内
		(72)発明者	春名 豊 東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ 計算機株式会社羽村技術センター内
		(74)代理人	弁理士 荒船 博司 (外1名)

(54)【発明の名称】 印刷方法

(57)【要約】

【課題】 本発明は、印刷指定の際に、予め設定された複数の付加印刷情報の中から印刷物に付加させたい表現内容に応じた付加印刷情報を選択指定する構成として、当該選択指定された付加印刷情報を印刷物に付加印刷する印刷方法を提供することである。

【解決手段】 コンピュータシステムでは、印刷物に付加させたい表現内容に応じた付加印刷情報をRAMの付加印刷情報定義メモリに複数設定し、印刷指定処理において印刷指定されたデータ（文書データ、帳票データなど）をカラー印字部で印刷出力する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定処理において指定された、前記データの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどや、前記データの種別などに関する付加印刷情報（文字列、記号、カラータグなど）を付加印刷する。

付加印刷情報定義テーブル

文字列	文字サイズ	文字修飾	文字色	背景色
緊急	24	枠付き	赤	黒
大至急	24	枠付き	オレンジ	なし
至急	20	なし	オレンジ	なし
通常	20	なし	黒	なし
...	...	...	...	...

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】印刷指定された文書データや帳票データ等を印刷物として印刷する印刷方法において、前記印刷物に付加させたい表現内容に応じた付加印刷情報を複数設定し、

印刷するデータの指定、並びに、前記設定した複数の付加印刷情報の中から印刷物に付加させる付加印刷情報を選択して指定する印刷指定工程を備え、

この印刷指定工程において印刷指定されたデータを印刷物として印刷する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定工程において指定された付加印刷情報を付加印刷することを特徴とする印刷方法。

【請求項 2】前記印刷物に付加させたい表現内容とは、印刷物として印刷されるデータの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどや、前記データの種別などを示すものであることを特徴とする請求項 1 記載の印刷方法。

【請求項 3】前記付加印刷情報は、印刷物として印刷されるデータの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどを文字列によって示す文字列情報であり、前記印刷指定工程において指定された文字列情報に基づく文字列を前記印刷物の所定位置に付加印刷することを特徴とする請求項 1 記載の印刷方法。

【請求項 4】前記文字列の文字サイズ、文字修飾、文字色、背景色などを任意に設定可能としたことを特徴とする請求項 3 記載の印刷方法。

【請求項 5】前記付加印刷情報は、印刷物として印刷されるデータの種別などを色によって識別するカラータグ情報であり、

前記印刷指定工程において指定されたカラータグ情報に基づくカラータグを前記印刷物の所定位置に付加印刷することを特徴とする請求項 1 記載の印刷方法。

【請求項 6】前記カラータグの色、大きさなどを任意に設定可能としたことを特徴とする請求項 5 記載の印刷方法。

【請求項 7】前記付加印刷情報は、印刷物として印刷されるデータの種別などを記号によって識別する記号情報であり、

前記印刷指定工程において指定された記号情報に基づく記号を前記印刷物の所定位置に付加印刷することを特徴とする請求項 1 記載の印刷方法。

【請求項 8】前記記号の色、大きさなどを任意に設定可能としたことを特徴とする請求項 7 記載の印刷方法。

【請求項 9】前記印刷物における付加印刷情報の印刷位置を任意に設定可能としたことを特徴とする請求項 1 記載の印刷方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、印刷方法に係り、詳細には、印刷指定されたデータを印刷出力する際に、指定された付加印刷情報を付加して印刷出力する印刷方

法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、例えば、ワードプロセッサ (Word Processor) やパーソナルコンピュータ (Personal Computer)、あるいはエンジニアリングワークステーション (Engineering Work Station) 等のデータ出力装置においては、作成した文書データや帳票データなどを印刷装置 (Printer) を用いて所定用紙に出力する印刷機能を備えている。

【0003】このようなデータ出力装置において印刷出力された文書や帳票等には、通常、以下に示すような処理が行なわれていた。例えば、業務に関する文書や帳票の場合、印刷出力したこれらの書類を回覧させるために、該書類の緊急度 (至急、緊急、通常など)、重要性 (重要、普通など)、機密性 (極秘、部外秘、社外秘など)、取り扱い (手渡し、回覧後廃棄、回覧後返却) などを該書類の先頭ページの右肩に朱印のスタンプを押すことによって示したり、或いは、ファイリングの際に該書類の種別などが一目でわかるように用紙の縁にマーカーやシールで識別色や識別記号を付加したりしていた。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の印刷方法においては、以下に述べるような問題点があった。

【0005】すなわち、上述したように従来の印刷機能によって印刷出力された文書や帳票には、さらにユーザーがスタンプ、マーカー、シールなどを用いてこれらの書類の緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどに関する表記を施したり、或いは、該書類の種別などを識別するための識別色や識別記号を付加したりしなければならず、手間と時間を要し、作業効率が悪かった。

【0006】また、このような事務処理の作業効率を改善するために、文書データや帳票データの作成中に上述した種々の付加印刷情報をヘッダーやフッター等として設定する場合、ユーザー自らがデータ作成毎に付加印刷情報の内容、位置、大きさ、色などの設定操作を行わなければならない、使い勝手が悪かった。加えて、このような場合、使用されるアプリケーションプログラムによって、付加印刷情報の位置、色、文字修飾形態などに違いが生じ、印刷出力される書類全体を通して付加印刷情報の統一が図れず、見栄えが悪いという問題点もあった。

【0007】本発明の課題は、印刷指定の際に、予め設定された複数の付加印刷情報の中から印刷物に付加させたい表現内容に応じた付加印刷情報を選択指定する構成として、当該選択指定された付加印刷情報を印刷物に付加印刷する印刷方法を提供することである。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、請求項 1 記載の発明は、印刷指定された文書データ

や帳票データ等を印刷物として印刷する印刷方法において、前記印刷物に付加させたい表現内容に応じた付加印刷情報を複数設定し、印刷するデータの指定、並びに、前記設定した複数の付加印刷情報の中から印刷物に付加させる付加印刷情報を選択して指定する印刷指定工程を備え、この印刷指定工程において印刷指定されたデータを印刷物として印刷する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定工程において指定された付加印刷情報を付加印刷することを特徴としている。

【0009】よって、請求項1記載の発明によれば、印刷物に付加させたい表現内容に応じた付加印刷情報を複数設定し、印刷するデータの指定、並びに、前記設定した複数の付加印刷情報の中から印刷物に付加させる付加印刷情報を選択して指定する印刷指定工程を備え、この印刷指定工程において印刷指定されたデータを印刷物として印刷する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定工程において指定された付加印刷情報を付加印刷する。

【0010】したがって、印刷出力された文書や帳票等に対して、従来のようにユーザー自らがスタンプ、マーカー、シールなどを用いてこれらの書類に付加させたい表現内容に応じた表記を施す必要がなくなり、そのための手間と時間を省くことが可能となり、作業効率を向上することができる。また、このような印刷方法をプリンタドライバ(Printer Driver)に適用することで、使用されるアプリケーションプログラムの違いに左右されず、印刷出力される書類全体を通して付加印刷情報の位置、色、文字修飾形態などの統一を図ることが可能となり、印刷機能を向上することができる。

【0011】また、請求項2に記載するように、請求項1記載の発明において、前記印刷物に付加させたい表現内容とは、印刷物として印刷されるデータの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどや、前記データの種別などを示すものであることが有効である。

【0012】この請求項2記載の発明によれば、印刷指定工程において印刷指定されたデータを印刷物として印刷する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定工程において指定された、前記データの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどや、前記データの種別などに関する付加印刷情報が付加印刷される。

【0013】したがって、印刷出力された文書や帳票等に対して、従来のようにユーザー自らがスタンプ、マーカー、シールなどを用いてこれらの書類の緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどに関する表記を施したり、或いは、該書類の種別などを識別するための識別色や識別記号を付加する必要がなく、そのための手間と時間を省くことが可能となり、作業効率を向上することができる。

【0014】また、請求項3に記載するように、請求項1記載の発明において、前記付加印刷情報は、印刷物と

して印刷されるデータの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどを文字列によって示す文字列情報であり、前記印刷指定工程において指定された文字列情報に基づく文字列を前記印刷物の所定位置に付加印刷することが有効である。

【0015】この請求項3記載の発明によれば、印刷指定工程において印刷指定されたデータを印刷物として印刷する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定工程において指定された、前記データの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどに関する文字列が付加印刷情報として付加印刷される。

【0016】したがって、印刷物の所定位置に付加印刷された文字列によって、この印刷物に関する緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどを識別することができる。

【0017】この場合、請求項4に記載するように、請求項3記載の発明において、前記文字列の文字サイズ、文字修飾、文字色、背景色などを任意に設定可能とすることが有効である。

【0018】この請求項4記載の発明によれば、付加印刷情報としての文字列について、その文字サイズ、文字修飾、文字色、背景色などが任意に設定可能となる。

【0019】したがって、付加印刷情報としての文字列について、ユーザーによるカスタマイズが可能となり、表記形態の多様化を図ることができる。

【0020】また、請求項5に記載するように、請求項1記載の発明において、前記付加印刷情報は、印刷物として印刷されるデータの種別などを色によって識別するカラータグ情報であり、前記印刷指定工程において指定されたカラータグ情報に基づくカラータグを前記印刷物の所定位置に付加印刷することが有効である。

【0021】この請求項5記載の発明によれば、印刷指定工程において印刷指定されたデータを印刷物として印刷する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定工程において指定された、前記データの種別などに関するカラータグが付加印刷情報として付加印刷される。

【0022】したがって、印刷物の所定位置に付加印刷されたカラータグの色によって、この印刷物の記述内容を見ることなく、その種別などを一目で識別することができる。

【0023】この場合、請求項6に記載するように、請求項5記載の発明において、前記カラータグの色、大きさなどを任意に設定可能とすることが有効である。

【0024】この請求項6記載の発明によれば、付加印刷情報としてのカラータグについて、その色、大きさなどが任意に設定可能となる。

【0025】したがって、付加印刷情報としてのカラータグについて、ユーザーによるカスタマイズが可能となり、表記形態の多様化を図ることができる。

【0026】また、請求項7に記載するように、請求項1記載の発明において、前記付加印刷情報は、印刷物と

して印刷されるデータの種別などを記号によって識別する記号情報であり、前記印刷指定工程において指定された記号情報に基づく記号を前記印刷物の所定位置に付加印刷することを有効である。

【0027】この請求項7記載の発明によれば、印刷指定工程において印刷指定されたデータを印刷物として印刷する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定工程において指定された、前記データの種別などに関する記号が付加印刷情報として付加印刷される。

【0028】したがって、印刷物の所定位置に付加印刷された記号によって、この印刷物の記述内容を見ることができ、その種別などを一目で識別することができる。

【0029】この場合、請求項8に記載するように、請求項7記載の発明において、前記記号の色、大きさなどを任意に設定可能とすることが有効である。

【0030】この請求項8記載の発明によれば、付加印刷情報としての記号について、その色、大きさなどが任意に設定可能となる。

【0031】したがって、付加印刷情報としての記号について、ユーザーによるカスタマイズが可能となり、表記形態の多様化を図ることができる。

【0032】また、請求項9に記載するように、請求項1記載の発明において、前記印刷物における付加印刷情報の印刷位置を任意に設定可能とすることが有効である。

【0033】この請求項9記載の発明によれば、印刷物における付加印刷情報の印刷位置が任意に設定可能となる。

【0034】したがって、付加印刷情報の印刷位置について、ユーザーによるカスタマイズが可能となり、表記位置の多様化を図ることができる。

#### 【0035】

【発明の実施の形態】以下、図を参照して本発明に好適な実施の形態を詳細に説明する。

（第1の実施の形態）図1～図7は、本発明の印刷方法を適用した第1の実施の形態のコンピュータシステムについて示す図である。

【0036】まず、構成を説明する。図1は、本発明を適用したコンピュータシステム1のブロック構成図であり、同図において、コンピュータシステム1は、入力部11、RAM12、CPU13、表示部14、カラー印刷部15、記憶装置16及び記憶媒体制御部17により構成されており、各部はバス19によって接続されている。

【0037】入力部11は、キー入力部11a及びマウス11bにより構成されており、キー入力部11aは、ファンクションキー、数値キー、文字キー及び他キーを有し、ユーザーによる各キー入力操作に応じた各種操作信号をCPU13に出力する。また、マウス11bは、表示部14に表示されるアイコンや操作メニューの選択

等を行なうポインティングデバイスであり、相対位置座標データ及びクリック信号をCPU13に出力する。

【0038】RAM(Random Access Memory)12は、ワークメモリ12a、付加印刷情報定義メモリ12b及び付加印刷情報展開メモリ12cにより構成されている。

【0039】ワークメモリ12aは、CPU13により各種制御処理が実行される際に、処理される各種データを一時的に格納するメモリエリアを形成する。

【0040】付加印刷情報定義メモリ12bは、付加印刷情報定義テーブルを一時的に格納するメモリエリアを形成する。この付加印刷情報定義テーブルは、書類の所定位置に印刷される付加印刷情報に関する定義データを格納しているテーブルである。

【0041】図2は、RAM12の付加印刷情報定義メモリ12bに格納される付加印刷情報定義テーブルの一例を示す図である。同図に示す付加印刷情報定義テーブルは、印刷出力される書類の緊急度に関する付加印刷情報について示すものである。この付加印刷情報定義テーブルは、「文字列」、「文字サイズ」、「文字修飾」、「文字色」及び「背景色」の各項目により構成されている。

【0042】「文字列」項目には、書類の所定位置に印刷される緊急度を示す文字列データ（緊急、大至急、至急、通常など）が格納される。また、「文字サイズ」、「文字修飾」、「文字色」及び「背景色」の各項目には、対応する「文字列」項目に格納される文字列データを印刷する際の、文字サイズデータ、文字修飾データ、文字色データ、背景色データがそれぞれ格納される。

【0043】なお、この付加印刷情報定義テーブルに格納される各項目データは、ユーザーによって任意に設定変更することができる。

【0044】また、図2には、付加印刷情報定義テーブルの一例として、緊急度に関する付加印刷情報について示したテーブルを挙げたが、付加印刷情報定義メモリ12bにはこの他にも同様にして、印刷出力される書類の重要性（重要、普通など）、機密性（極秘、部外秘、社外秘など）、取り扱い（手渡し、回覧後廃棄、回覧後返却）などに関する付加印刷情報について示したテーブルが格納される。

【0045】付加印刷情報展開メモリ12cは、後述する印刷指定処理（図3参照）において、書類の所定位置に印刷させる付加印刷情報が選択指定された際に、この付加印刷情報のイメージデータ（図形データ）を展開するメモリエリアを形成する。

【0046】CPU(Central Processing Unit)13は、記憶装置16、記憶媒体18等に格納される各種制御プログラムやアプリケーションプログラムなどに従ってコンピュータシステム1の各部を制御する中央演算装置である。

【0047】具体的には、CPU13は、入力部11から印刷指定モードに移行する旨が指示されると後述する印刷指定処理（図3参照）を実行し、入力部11からのデータや入力指示に基づいて印刷内容の指定を行なう。また、CPU13は、印刷指定処理（図3参照）において印刷を実行する旨が指示されると、後述する印刷処理（図4参照）を実行し、印刷指定処理において指定された内容に基づいてカラー印刷部15を駆動制御して、所定用紙への印刷出力を行なう。

【0048】また、CPU13は、入力部11から付加印刷情報の設定を行なう旨が指示された場合に、付加印刷情報定義テーブルを記憶装置16から読み出してRAM12の付加印刷情報定義メモリ12bに格納するとともに、この情報を表示部14に表示する。そして、ユーザーにより新たに設定、或いは設定変更されたデータを付加印刷情報定義メモリ12bの付加印刷情報定義テーブルに格納した後、この付加印刷情報定義テーブルを新たな付加印刷情報定義テーブルとして記憶装置16に記憶する。

【0049】表示部14は、CRT（Cathode Ray Tube）や液晶ディスプレイ等により構成されており、CPU13から入力される表示データを表示する。カラー印刷部15は、CPU13から入力される印刷データ（例えば、文書データや帳票データなど）を指定された色で所定用紙に印刷する。

【0050】記憶装置16は、制御プログラムやアプリケーションプログラム、或いは、付加印刷情報定義テーブルや各種データ等が記憶される記憶媒体を有しており、この記憶媒体は磁氣的、光学的記録媒体、若しくは半導体メモリで構成されている。

【0051】なお、上記記憶媒体は記憶装置16に固定的に設けられたものであってもよいし、或いは、記憶装置16に着脱自在に装着するものであってもよい。

【0052】また、上記記憶媒体に記憶されるプログラム、データ等は、通信回線等を介して接続された他の機器から受信して記憶する構成としてもよく、更に、通信回線等を介して接続された他の機器側に上記記憶媒体を備えた記憶装置16を設け、この記憶媒体に記憶されているプログラム、データ等を通信回線を介して使用する構成としてもよい。

【0053】記憶媒体制御部17は、CPU13によって制御され、図中に示す記憶媒体18（例えば、フロッピーディスクなど）を駆動制御する。この記憶媒体制御部17では、CPU13から書き込み指示が入力された場合に、指定されたデータを記憶媒体18の指定された記憶領域に書き込み、また、読み出し指示が入力された場合に、指定されたデータを記憶媒体18から読み出して、RAM12のワークメモリ12aや記憶装置16内の指定された記憶領域に転送する。以上が、本実施の形態におけるコンピュータシステム1の構成である。

【0054】次に、動作を説明する。本実施の形態において、後述する印刷指定処理（図3参照）及び印刷処理（図4参照）は、各種アプリケーションプログラムによって作成された文書データや帳票データ等をカラー印刷部15によって所定用紙に印刷出力する際に、その印刷制御を行なうプリンタドライバとして組み込まれているものである。

【0055】まず、本実施の形態のCPU13において実行される印刷指定処理について、図3に示すフローチャートと、図5に示す印刷指定のサブウィンドウ画面の表示例とに基づいて説明する。CPU13では、マウスカーソル24によりメニューバー21の印刷指定領域21nが指定され、かつ、マウス11bがクリックされた場合に、記憶装置16に格納される当該印刷指定処理に関するプログラムを読み出して、その処理を開始する。

【0056】まず、CPU13は、図5（a）に示すように印刷指定用のサブウィンドウ22を開くとともに（ステップS1）、記憶装置16から付加印刷情報定義テーブルを読み出して、RAM12の付加印刷情報定義メモリ12bに格納する。

【0057】次いで、CPU13は、サブウィンドウ22内のキャンセルボタン22bが押されたか否か、すなわち、マウスカーソル24によりキャンセルボタン22bが指定され、かつ、マウス11bがクリックされたか否かを判別し（ステップS2）、キャンセルボタン22bが押された場合は、印刷指定用のサブウィンドウ22を閉じて（ステップS3）、当該印刷指定処理を終了する。

【0058】また、CPU13は、上記ステップS2において、キャンセルボタン22bが押されていないと判別した場合は、次いで、同様にして印刷ボタン22aが押されたか否かを判別し（ステップS4）、印刷ボタン22aが押された場合は、後述する印刷処理（図4参照）に移行する（ステップS5）。

【0059】一方、CPU13は、上記ステップS4において、印刷ボタン22aが押されていないと判別した場合は、次いで、サブウィンドウ22内の緊急度項目が「あり」に設定されたか否かを判別し（ステップS6）、緊急度項目が「あり」に設定されていない場合、すなわち、「なし」と設定された場合は、ステップS1に移行する。また、CPU13は、緊急度項目が「あり」に設定されたと判別した場合は、図5（b）に示すようにリストボックス23を開き（ステップS7）、付加印刷情報定義メモリ12bに格納される緊急度に関する付加印刷情報定義テーブルの「文字列」項目に格納される各データをリストボックス23内に一覧表示させる（ステップS8）。

【0060】次いで、CPU13は、リストボックス23内に一覧表示させた付加印刷情報の中から、印刷する書類に付加させる付加印刷情報が選択指定されたか否か

を判別し（ステップS9）、前記付加印刷情報が選択指定されていない場合は、引き続いて、前記付加印刷情報が選択指定されたか否かの監視を行う。

【0061】また、CPU13は、上記ステップS9において、印刷する書類に付加させる付加印刷情報が選択指定されたと判別した場合は、リストボックス23内において選択指定された付加印刷情報を反転表示させた後（図5（b）参照）、この付加印刷情報に関するデータ（文字列、文字サイズ、文字修飾、文字色及び背景色）を付加印刷情報定義メモリ12bに格納される前記付加印刷情報定義テーブルから読み出して、これらのデータに基づいて選択指定された付加印刷情報のイメージデータ（図形データ）を生成し、RAM12の付加印刷情報展開メモリ12cに格納する（ステップS10）。

【0062】一方、CPU13は、上記ステップS6において、緊急度項目が「なし」に設定されたと判別した場合は、次いで、サブウィンドウ22内の他項目（印刷データ、部数、ページ数、カラーなど）の設定処理を行った後（ステップS11）、上記ステップS2に戻る。以上が、本実施の形態のCPU13において実行される印刷指定処理の動作手順である。

【0063】次に、本実施の形態のCPU13において実行される印刷処理について、図4に示すフローチャートと、図6に示す印刷例とに基づいて説明する。CPU13では、上記印刷指定処理（図3参照）において、マウスカーソル24によりサブウィンドウ22内の印刷ボタン22aが指定され、かつ、マウス11bがクリックされた場合に、記憶装置16に格納される当該印刷処理に関するプログラムを読み出して、その処理を開始する。

【0064】まず、CPU13は、上記印刷指定処理において印刷指定されたデータ（例えば、文書データや帳票データなど）を記憶装置16から読み出して、RAM12のワークメモリ12aに格納する（ステップS21）。

【0065】次いで、CPU13は、ワークメモリ12aに格納した前記データを1ページ分ずつ印刷データとしてカラー印刷部15に出力していくわけであるが、この際、CPU13は、カラー印刷部15に出力する印刷データが先頭ページ分のデータであるか否かを判別し（ステップS22）、先頭ページ分のデータでない場合は、ステップS25に移行する。

【0066】また、CPU13は、上記ステップS22において、先頭ページ分のデータであると判別した場合は、次いで、上記印刷指定処理において緊急度項目が「あり」に設定されているか否かを判別し（ステップS23）、緊急度項目が「あり」に設定されていない場合は、ステップS25に移行する。また、CPU13は、緊急度項目が「あり」に設定されていると判別した場合は、RAM12の付加印刷情報展開メモリ12cに格納

されている付加印刷情報のイメージデータを読み出して、この付加印刷情報のイメージデータと先頭ページ分の印刷データとをワークメモリ12aで合成した後（ステップS24）、ステップS25に移行する。

【0067】なお、上記ステップS24において、付加印刷情報のイメージデータは、予め定められた位置データに基づいて、印刷する書類の先頭ページの右肩部分に収まるように合成される。

【0068】そして、CPU13は、ワークメモリ12aから1ページ分の印刷データをカラー印刷部15に出力し（ステップS25）、カラー印刷部15では、CPU13によってワークメモリ12aから転送された1ページ分の印刷データに基づいて、所定用紙に印刷出力を行なう。

【0069】その後、CPU13は、カラー印刷部15に出力した印刷データが最終ページ分のデータであったか否かを判別し（ステップS26）、最終ページ分のデータでなかった場合は、上記ステップS25に戻り、次のページ分の印刷データをカラー印刷部15に出力する。

【0070】また、CPU13は、カラー印刷部15に出力した印刷データが最終ページ分のデータであったと判別した場合は、当該印刷処理を終了する。

【0071】図6は、上記印刷処理（図4参照）によって作成される書類の先頭ページの一例を示す図である。

なお、同図は、図2に示した緊急度に関する付加印刷情報定義テーブルにおいて、「大至急」が選択指定された場合について示すものである。図6に示すように付加印刷情報としての文字列「大至急」は、図2に示した付加印刷情報定義テーブルの、対応する「文字サイズ」、

「文字修飾」、「文字色」及び「背景色」の各項目に格納されるデータに基づいて、文字サイズ「24」、枠付き、文字色及び枠色「オレンジ」で、印刷した書類の先頭ページの右肩部分に付加印刷される。以上が、本実施の形態のCPU13において実行される印刷処理の動作手順である。

【0072】なお、上記印刷指定処理（図3参照）及び印刷処理（図4参照）では、印刷される書類の緊急度に関する付加印刷情報について示したが、付加印刷情報は緊急度に関するものに限定されるわけではなく、図5に示した印刷指定用のサブウィンドウ22において、緊急度項目の下に、重要性項目（重要、普通など）、機密性項目（極秘、部外秘、社外秘など）、取り扱い項目（手渡し、回覧後廃棄、回覧後返却）などを設け、これらの各項目についても上記緊急度項目と同様の処理を行なう構成とすれば、上記各項目に関する付加印刷情報についても書類の所定位置に印刷可能となる。

【0073】また、本実施の形態においては、付加印刷情報を書類に印刷する際に、その印刷位置を先頭ページの右肩部分としたが、この付加印刷情報の印刷位置は前



記内容に限定されるものではなく、先頭ページの左肩部分、最終ページの右肩部分、或いは全ページの右下部分など、ユーザによって任意に設定可能である。この場合、図 7 に示すように付加印刷情報定義テーブルに「印刷位置」項目を設け、各付加印刷情報毎に印刷位置データを備えることが望ましい。

【0074】なお、図 7 に示す付加印刷情報定義テーブルの「印刷位置」項目において、例えば、最上段に格納される「全ページ、左肩（左端 25・上端 10）」とは、印刷される書類の全ページに渡り、用紙の左端から 25 ミリ、上端から 10 ミリの位置から 1 文字目が始まるように付加印刷情報を印刷することを意味している。

【0075】以上のようなことから、本実施の形態におけるコンピュータシステム 1 によれば、印刷物に付加させたい表現内容に応じた付加印刷情報を RAM 12 の付加印刷情報定義メモリ 12b に複数設定し、印刷するデータの指定、並びに、前記付加印刷情報定義メモリ 12b に設定した複数の付加印刷情報の中から印刷物に付加させる付加印刷情報を選択して指定する印刷指定処理を備え、この印刷指定処理において印刷指定されたデータをカラー印刷部 15 で印刷物として印刷出力する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定処理において指定された付加印刷情報を付加印刷する。

【0076】したがって、印刷出力された文書や帳票等に対して、従来のようにユーザ自らがスタンプ、マーカ、シールなどを用いてこれらの書類に付加させたい表現内容に応じた表記を施す必要がなくなり、そのための手間と時間を省くことが可能となる。また、このような印刷方法をプリンタドライバに適用したことで、使用されるアプリケーションプログラムの違いに左右されず、印刷出力される書類全体を通して付加印刷情報の位置、色、文字修飾形態などの統一を図ることができる。

【0077】また、本実施の形態におけるコンピュータシステム 1 によれば、印刷指定処理において印刷指定されたデータをカラー印刷部 15 で印刷物として印刷出力する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定処理において指定された、前記データの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどに関する付加印刷情報が付加印刷される。

【0078】したがって、印刷出力された文書や帳票等に対して、従来のようにユーザ自らがスタンプ、マーカ、シールなどを用いてこれらの書類の緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどに関する表記を施す必要がなく、そのための手間と時間を省くことが可能となる。

【0079】また、本実施の形態におけるコンピュータシステム 1 によれば、印刷指定処理において印刷指定されたデータをカラー印刷部 15 で印刷物として印刷出力する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定処理において指定された、前記データの緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどに関する文字列が付加印刷情報として

付加印刷される。

【0080】したがって、印刷物の所定位置に付加印刷された文字列によって、この印刷物に関する緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどを識別することができる。

【0081】さらに、本実施の形態におけるコンピュータシステム 1 によれば、付加印刷情報としての文字列について、その文字サイズ、文字修飾、文字色、背景色などが任意に設定可能となる。

【0082】したがって、付加印刷情報としての文字列について、ユーザによるカスタマイズが可能となる。

【0083】また、本実施の形態におけるコンピュータシステム 1 によれば、印刷物における付加印刷情報の印刷位置が任意に設定可能となる。

【0084】したがって、付加印刷情報の印刷位置について、ユーザによるカスタマイズが可能となる。以上が、第 1 の実施の形態についての説明である。

【0085】（第 2 の実施の形態）次に、図 8 及び図 9 は、本発明の印刷方法を適用した第 2 の実施の形態のコンピュータシステムについて示す図である。なお、第 2 の実施の形態におけるコンピュータシステム 2 の構成及び動作は、基本的に上記第 1 の実施の形態におけるコンピュータシステム 1 と同様であるので図示及び説明を省略し、ここでは本実施の形態に特有な部分のみを説明するものとする。

【0086】このコンピュータシステム 2 の付加印刷情報定義メモリ 12b には、上記第 1 の実施の形態におけるコンピュータシステム 1 と同様に付加印刷情報定義テーブルが格納される。この付加印刷情報定義テーブルは、書類の所定位置に印刷される付加印刷情報に関する定義データを格納しているテーブルである。

【0087】図 8 及び図 9 は、RAM 12 の付加印刷情報定義メモリ 12b に格納される付加印刷情報定義テーブルの一例を示す図である。図 8 に示す付加印刷情報定義テーブルは、印刷出力される書類の種別などに応じてユーザにより指定される記号に関する付加印刷情報について示すものである。この付加印刷情報定義テーブルは、「記号」、「印刷サイズ」及び「色」の 3 項目により構成されている。

【0088】「記号」項目には、書類の所定位置に印刷される記号データが格納される。また、「印刷サイズ」及び「色」の両項目には、対応する「記号」項目に格納される記号データを印刷する際の、印刷サイズデータ、色データがそれぞれ格納される。

【0089】また、図 9 に示す付加印刷情報定義テーブルは、印刷出力される書類の種別などに応じてユーザにより指定されるカラータグに関する付加印刷情報について示すものである。この付加印刷情報定義テーブルは、「色」、「印刷サイズ」及び「階調数」の 3 項目により構成されている。

【0090】「色」項目には、書類の所定位置に印刷さ

れるカラータグの色データが格納される。また、「印刷サイズ」及び「階調数」の両項目には、対応する「色」項目に格納されるカラータグを印刷する際の、印刷サイズデータ、階調数データがそれぞれ格納される。

【0091】ここで、「階調数」項目に格納される階調数データとは、色の濃度を示すデータであり、例えば、図9に示す付加印刷情報定義テーブルの最上段に格納されるカラータグデータは、全4階調ある「赤」色のうち第1階調の「赤」色のカラータグであることを意味している。

【0092】なお、上記付加印刷情報定義テーブルに格納される各項目データは、ユーザーによって任意に設定変更することができる。

【0093】本実施の形態におけるコンピュータシステム2では、RAM12の付加印刷情報定義メモリ12bに上述した2つの付加印刷情報定義テーブルが格納され、上記第1の実施の形態におけるコンピュータシステム1と同様の印刷指定処理及び印刷処理を行なうことにより、印刷される書類の先頭ページの右肩部分に、ユーザーによって指定された、その書類の種別などに応じた記号やカラータグが付加印刷情報として印刷される。

【0094】なお、本実施の形態におけるコンピュータシステム2は、上記第1の実施の形態におけるコンピュータシステム1と同様に、図7に示したように付加印刷情報定義テーブルに「印刷位置」項目を設け、各付加印刷情報毎に印刷位置データを備える構成として、ユーザーによって任意に付加印刷情報の印刷位置を設定可能とすることができる。

【0095】以上のようなことから、本実施の形態におけるコンピュータシステム2によれば、印刷物に付加させたい表現内容に応じた付加印刷情報をRAM12の付加印刷情報定義メモリ12bに複数設定し、印刷するデータの指定、並びに、前記付加印刷情報定義メモリ12bに設定した複数の付加印刷情報の中から印刷物に付加させる付加印刷情報を選択して指定する印刷指定処理を備え、この印刷指定処理において印刷指定されたデータをカラー印刷部15で印刷物として印刷出力する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定処理において指定された付加印刷情報を付加印刷する。

【0096】したがって、印刷出力された文書や帳票等に対して、従来のようにユーザー自らがスタンプ、マーカ、シールなどを用いてこれらの書類に付加させたい表現内容に応じた表記を施す必要がなくなり、そのための手間と時間を省くことが可能となる。また、このような印刷方法をプリンタドライバに適用したことで、使用されるアプリケーションプログラムの違いに左右されず、印刷出力される書類全体を通して付加印刷情報の位置、色、文字修飾形態などの統一を図ることができる。

【0097】また、本実施の形態におけるコンピュータシステム2によれば、印刷指定処理において印刷指定さ

れたデータをカラー印刷部15で印刷物として印刷出力する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定処理において指定された、前記データの種別などに関する付加印刷情報が付加印刷される。

【0098】したがって、印刷出力された文書や帳票等に対して、従来のようにユーザー自らがスタンプ、マーカ、シールなどを用いてこれらの書類の種別などを識別するための識別色や識別記号を付加する必要がなくなり、そのための手間と時間を省くことが可能となる。

10 【0099】また、本実施の形態におけるコンピュータシステム2によれば、印刷指定処理において印刷指定されたデータをカラー印刷部15で印刷物として印刷出力する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定処理において指定された、前記データの種別などに関するカラータグが付加印刷情報として付加印刷される。

【0100】したがって、印刷物の所定位置に付加印刷されたカラータグの色によって、この印刷物の記述内容を見ることなく、その種別などを一目で識別することができる。

20 【0101】さらに、本実施の形態におけるコンピュータシステム2によれば、付加印刷情報としてのカラータグについて、その色、大きさなどが任意に設定可能となる。

【0102】したがって、付加印刷情報としてのカラータグについて、ユーザーによるカスタマイズが可能となる。

【0103】また、本実施の形態におけるコンピュータシステム2によれば、印刷指定処理において印刷指定されたデータをカラー印刷部15で印刷物として印刷出力する際に、この印刷物の所定位置に前記印刷指定処理において指定された、前記データの種別などに関する記号が付加印刷情報として付加印刷される。

【0104】したがって、印刷物の所定位置に付加印刷された記号によって、この印刷物の記述内容を見ることなく、その種別などを一目で識別することができる。

【0105】さらに、本実施の形態におけるコンピュータシステム2によれば、付加印刷情報としての記号について、その色、大きさなどが任意に設定可能となる。したがって、付加印刷情報としての記号について、ユーザーによるカスタマイズが可能となる。

【0106】また、本実施の形態におけるコンピュータシステム2によれば、印刷物における付加印刷情報の印刷位置が任意に設定可能となる。

【0107】したがって、付加印刷情報の印刷位置について、ユーザーによるカスタマイズが可能となる。

【0108】以上、本発明を実施の形態の第1例及び第2例に基づいて具体的に説明したが、本発明は上記実施の形態例に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で適宜に変更可能であることは勿論である。

【0109】例えば、上記第1の実施の形態において、

付加印刷情報定義テーブルの「文字修飾」項目に格納されるデータは、枠付きであるか否かに関するデータに限定されるものではなく、文字列データの字体パターン（明朝体、ゴシック体、毛筆体、或いは、白ぬき、影付け、ボールド、斜体など）や、網かけパターンなどのデータであってもよい。

【0110】また、上記第2の実施の形態において、記号やカラータグ（付加印刷情報）は、印刷される書類の種別などに応じてユーザーにより指定されるわけであるが、この種別とは、例えば、文書データ、図形データ、帳票データ等と分類される種別や、帳票データについて、入金伝票、支払伝票、売上伝票、発送伝票等と分類される種別、或いは伝票について、その発行月日や期限月日等によって分類される種別などである。

【0111】また、上記第1及び第2の実施の形態においては、ポインティングデバイスとしてマウスを用いたが、これはマウスに限定されるものではなく、例えば、ペン入力装置やトラックボール、あるいはタッチパッド等であってもよいことは勿論である。

【0112】

【発明の効果】請求項1記載の発明によれば、印刷出力された文書や帳票等に対して、従来のようにユーザー自らがスタンプ、マーカ、シールなどを用いてこれらの書類に付加させたい表現内容に応じた表記を施す必要がなくなり、そのための手間と時間を省くことが可能となり、作業効率を向上することができる。また、このような印刷方法をプリンタドライバに適用することで、使用されるアプリケーションプログラムの違いに左右されず、印刷出力される書類全体を通して付加印刷情報の位置、色、文字修飾形態などの統一を図ることが可能となり、印刷機能を向上することができる。

【0113】請求項2記載の発明によれば、印刷出力された文書や帳票等に対して、従来のようにユーザー自らがスタンプ、マーカ、シールなどを用いてこれらの書類の緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどに関する表記を施したり、或いは、該書類の種別などを識別するための識別色や識別記号を付加する必要がなく、そのための手間と時間を省くことが可能となり、作業効率を向上することができる。請求項3記載の発明によれば、印刷物の所定位置に付加印刷された文字列によって、この印刷物に関する緊急度、重要性、機密性、取り扱いなどを識別することができる。

【0114】請求項4記載の発明によれば、付加印刷情報としての文字列について、ユーザーによるカスタマイズが可能となり、表記形態の多様化を図ることができる。

【0115】請求項5記載の発明によれば、印刷物の所定位置に付加印刷されたカラータグの色によって、この印刷物の記述内容を見ることなく、その種別などを一目で識別することができる。

【0116】請求項6記載の発明によれば、付加印刷情報としてのカラータグについて、ユーザーによるカスタマイズが可能となり、表記形態の多様化を図ることができる。

【0117】請求項7記載の発明によれば、印刷物の所定位置に付加印刷された記号によって、この印刷物の記述内容を見ることなく、その種別などを一目で識別することができる。

【0118】請求項8記載の発明によれば、付加印刷情報としての記号について、ユーザーによるカスタマイズが可能となり、表記形態の多様化を図ることができる。

【0119】請求項9記載の発明によれば、付加印刷情報の印刷位置について、ユーザーによるカスタマイズが可能となり、表記位置の多様化を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を適用したコンピュータシステムのブロック構成図。

【図2】図1のRAMの付加印刷情報定義メモリに格納される付加印刷情報定義テーブルの一例を示す図。

【図3】図1のCPUにおいて実行される印刷指定処理のフローチャート。

【図4】図1のCPUにおいて実行される印刷処理のフローチャート。

【図5】図3に示す印刷指定処理において表示されるサブウィンドウ画面の一例を示す図。

【図6】図4に示す印刷処理によって作成される印刷物の先頭ページの一例を示す図。

【図7】図1のRAMの付加印刷情報定義メモリに格納される付加印刷情報定義テーブルの変形例を示す図。

【図8】第2の実施の形態において、RAMの付加印刷情報定義メモリに格納される付加印刷情報定義テーブルの一例を示す図（その1）。

【図9】第2の実施の形態において、RAMの付加印刷情報定義メモリに格納される付加印刷情報定義テーブルの一例を示す図（その2）。

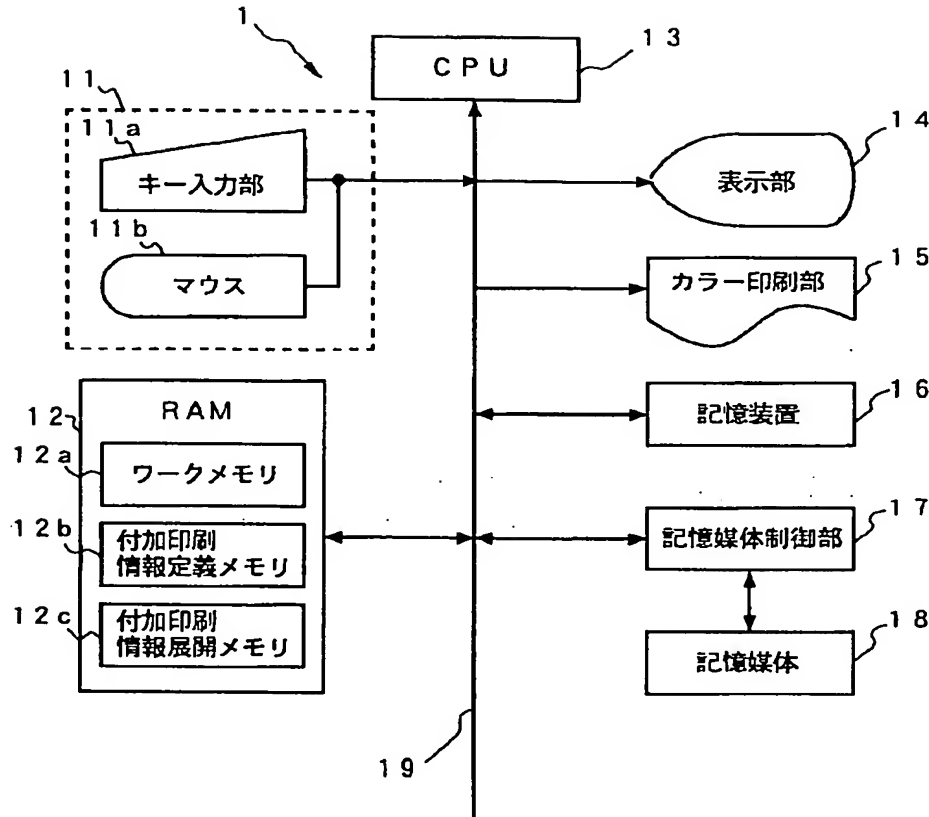
【符号の説明】

- 1 コンピュータシステム
- 2 コンピュータシステム
- 11 入力部
- 11a キー入力部
- 11b マウス
- 12 RAM
- 12a ワークメモリ
- 12b 付加印刷情報定義メモリ
- 12c 付加印刷情報展開メモリ
- 13 CPU
- 14 表示部
- 15 カラー印刷部
- 16 記憶装置
- 17 記憶媒体制御部

- 18 記憶媒体  
19 バス  
21 メニューバー  
21n 印刷指定領域  
22 サブウィンドウ

- 22a 印刷ボタン  
22b キャンセルボタン  
23 リストボックス  
24 マウスカーソル

【図1】



【図8】

付加印刷情報定義テーブル

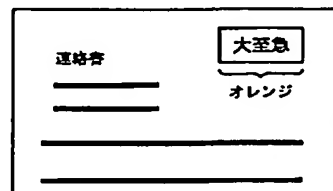
記号	印刷サイズ	色
○	12	赤
●	12	青
▲	10	緑
★	15	黄
⋮	⋮	⋮

【図2】

付加印刷情報定義テーブル

文字列	文字サイズ	文字修飾	文字色	背景色
緊急	24	枠付き	赤	黒
大至急	24	枠付き	オレンジ	なし
至急	20	なし	オレンジ	なし
通常	20	なし	黒	なし
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

【図6】

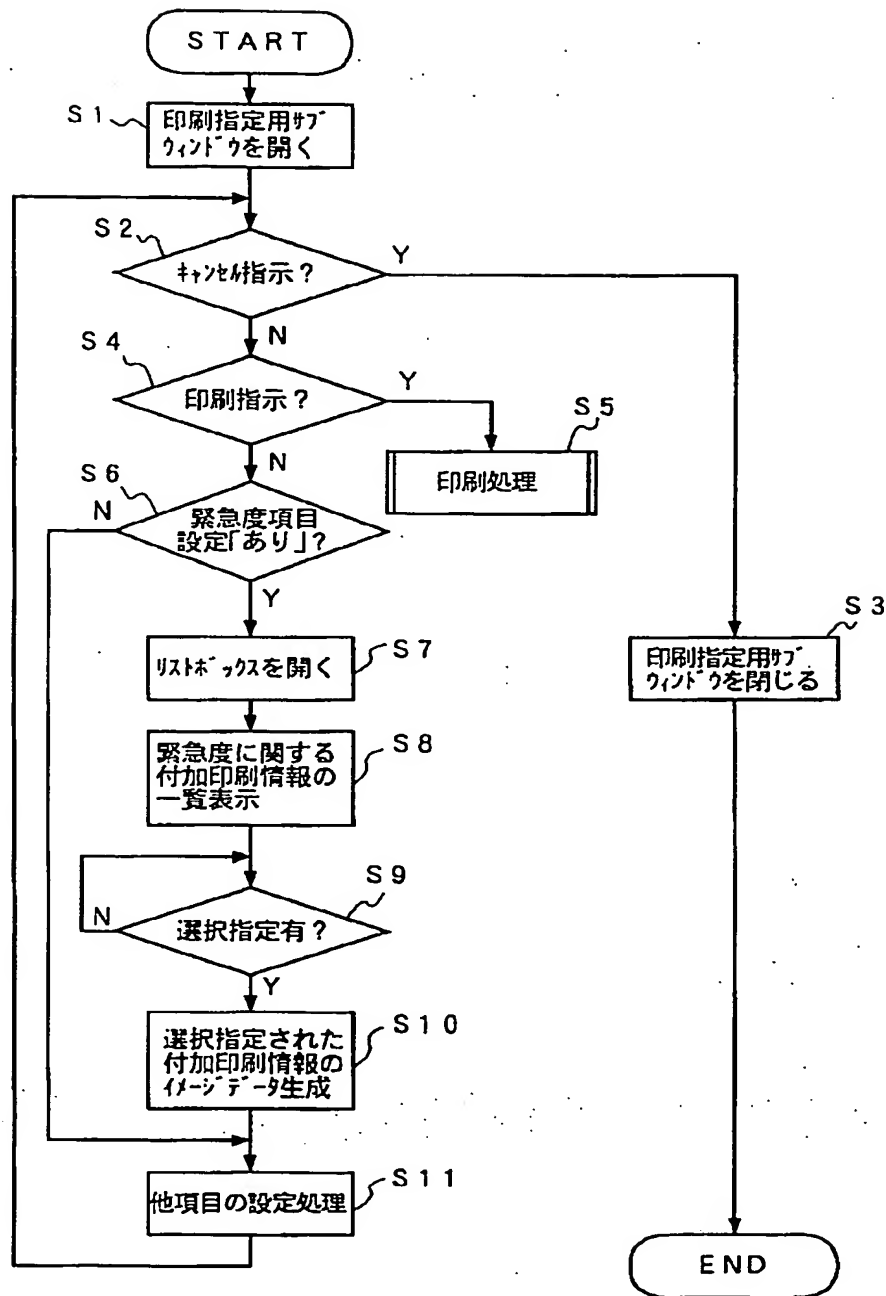


【図9】

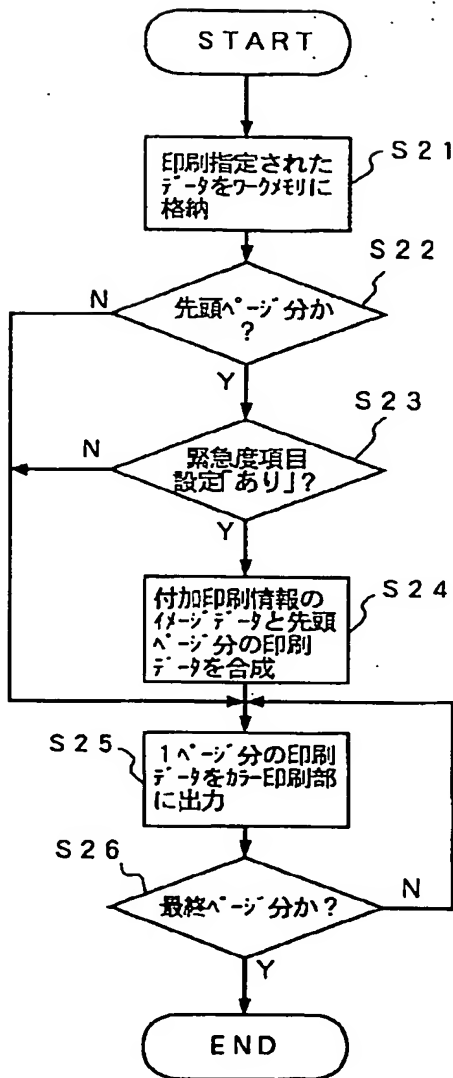
付加印刷情報定義テーブル

色	印刷サイズ	階調数
赤	10mm×30mm	1
黄	15mm×40mm	4
青	10mm×10mm	2
緑	20mm×60mm	3
⋮	⋮	⋮

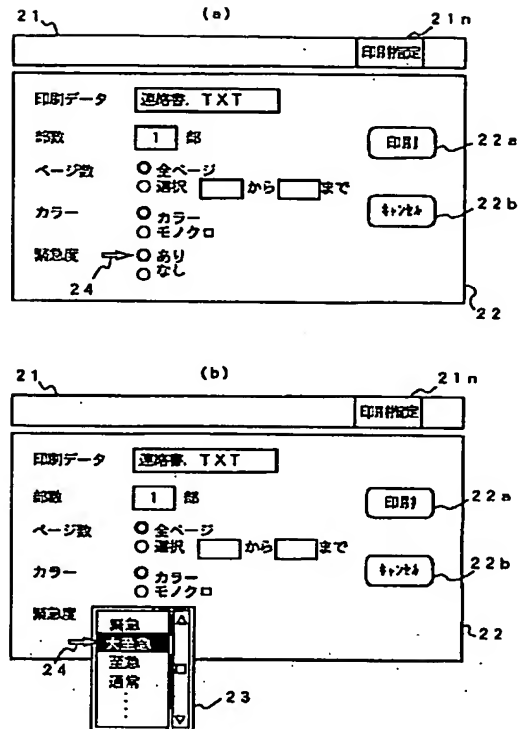
【図3】



【図4】



【図5】



【図7】

付加印刷情報定義テーブル

文字列	文字サイズ	文字修飾	文字色	背景色	印刷位置
緊急	24	棒付き	赤	黒	全ページ、左肩(左端25・上端10)
大至急	24	棒付き	オレンジ	なし	先頭ページ、右肩(右端100・上端10)
至急	20	なし	オレンジ	なし	先頭ページ、右肩(右端90・上端10)
通常	20	なし	黒	なし	最終ページ、右下(右端90・下端10)
...	...	...	...	...	...